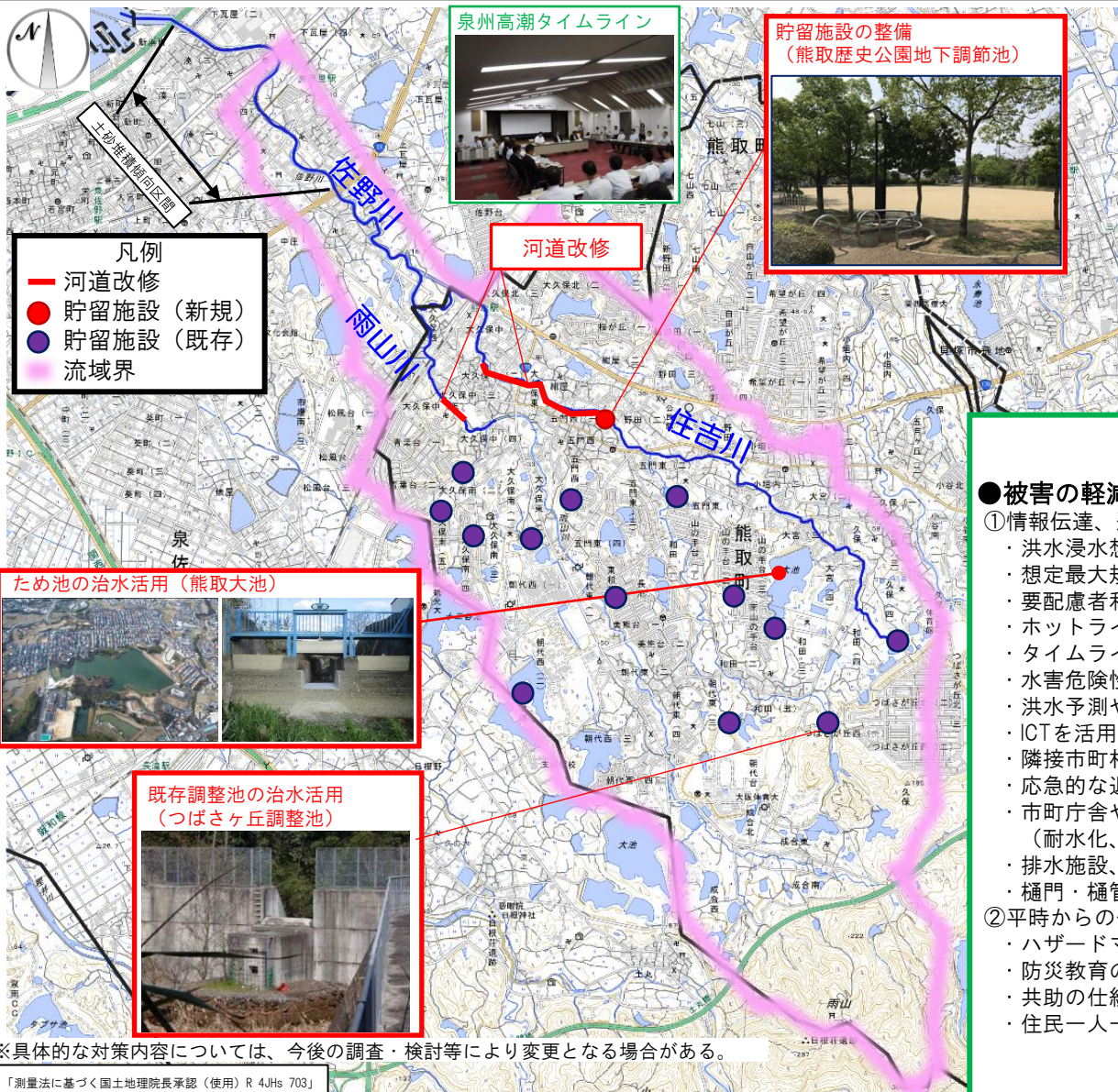


○昭和27年7月集中豪雨などで、甚大な被害が発生した佐野川水系では、河道掘削や新規調節池の整備のほか、既存調整池やため池の活用を推進することで、時間雨量65ミリ程度の降雨による洪水を対象に整備を行うとともに、避難のためのソフト対策に取り組み、流域一体となった治水対策を推進します。



●氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

- ・河道拡幅、河道掘削【府】
- ・貯留施設整備【府】
- ・ため池及び農業用施設等の治水活用【府・町・民間】
- ・既存貯留施設の治水活用【府・町】
- ・砂防施設の保全【府】
- ・河道内堆積土砂の撤去
- ・下水道等排水施設の整備(要確認)
- ・治山施設・森林の整備及び保全【府】

●被害対象を減少させるための対策

- ・土砂災害特別警戒区域内の既存住宅に対する補助制度
- ・立地適正化計画に基づき水害リスクの低い地域への居住誘導

●被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

- ①情報伝達、避難計画等に関する事項
 - ・洪水浸水想定区域の指定拡大【府】
 - ・想定最大規模の雨水出水に係る浸水想定区域図等の作成と周知【府・市町】
 - ・要配慮者利用施設における避難確保計画の作成及び避難訓練の実施【府・市町】
 - ・ホットラインの運用（洪水・土砂・高潮）【府・市町】
 - ・タイムラインの策定・運用（広域・市町域・地域）【府・市町・民間】
 - ・水害危険性の周知促進【府】
 - ・洪水予測や水位情報の提供の強化、水位計、河川カメラの整備【府】
 - ・ICTを活用した洪水情報の提供【府、気象台】
 - ・隣接市町村における避難場所の設定（広域避難体制の構築）等【府・市町】
 - ・応急的な退避場所の確保【市町】
 - ・市町村庁舎や災害拠点病院等の機能確保のための対策の充実（耐水化、非常用発電機等の整備）【市町】
 - ・排水施設、排水資機材の運用方法の改善【府、市町】
 - ・樋門・樋管等の施設の確実な運用体制の確保【府・市町】
- ②平時からの住民等への周知・教育・訓練に関する事項等
 - ・ハザードマップの改良、周知、活用【府、市町】
 - ・防災教育の推進【府、市町】
 - ・共助の仕組みの強化、地域防災力の向上のための人材育成【府・市町】
 - ・住民一人一人の避難計画(マイタイムライン)・情報マップの作成促進【府、市町】等

※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

二級水系
流域治水プロジェクト

佐野川水系 流域治水プロジェクト【ロードマップ】
～調節池やため池を活用した流域治水の推進～

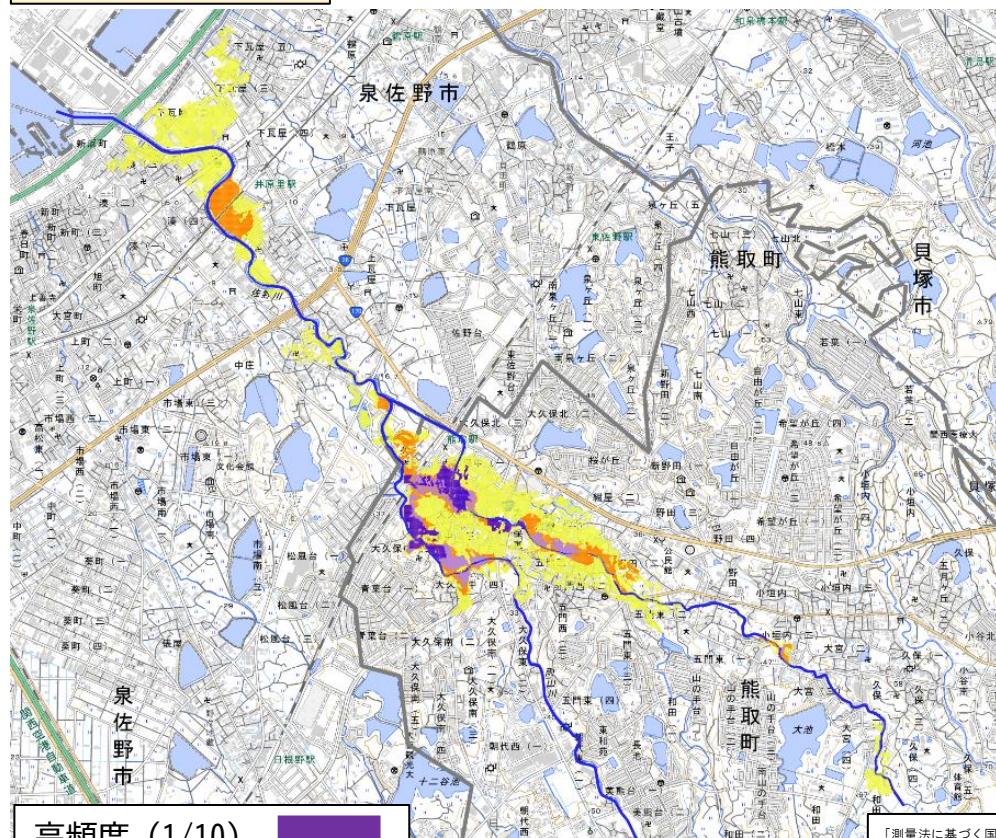
- 佐野川水系では、上下流・本支川の流域全体を俯瞰し、府・市町が一体となって、「流域治水」を推進する。
 - 【短期】住宅密集地での重大災害の発生を未然に防ぐため、河道改修および調節池整備等に着手。
 - 【中期】河道改修、調節池整備、ため池や既存貯留施設の治水活用の推進。
 - 【中長期】時間雨量50ミリ程度の降雨に対して家屋床下浸水を防ぎ、かつ時間雨量65ミリに対して床上浸水を発生させない対策を完了。

区分	対策内容	実施主体	工程		
			R4年度～ 短期	中期	中長期
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	住吉川の河道改修・河道掘削	大阪府			
	雨山川の河道改修・河道掘削	大阪府			
	貯留施設の整備	大阪府			新規貯留施設概成
	ため池の治水活用	大阪府・熊取町・民間			
	既存貯留施設の治水活用	大阪府・熊取町			
	砂防施設、治山施設、森林の整備・保全	大阪府		定期点検による継続監視及び状況により適宜実施	
	河道内の堆積土砂撤去	大阪府			
被害対象を減少させるための対策	土砂災害特別警戒区域内の既存住宅に対する補助制度	大阪府・泉佐野市・熊取町			
	水害リスクの低い地域への居住誘導（立地適正化計画の策定等）	泉佐野市・熊取町			
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	①情報伝達、避難計画等に関する事項 ・洪水浸水想定区域の指定拡大 ・雨水出水浸水想定区域の指定 ・市町村、地域タイムラインの策定 ・要配慮者利用施設の避難確保計画作成 ・防災気象情報の改善 等	大阪府・泉佐野市・熊取町・気象台	洪水浸水想定区域指定拡大完了（R4年度）		
	②平時からの住民等への周知・教育・訓練に関する事項 ・ハザードマップの改良・周知・活用 ・マイタイムラインの策定 等	大阪府・泉佐野市・熊取町		雨水出水浸水想定区域図作成・公表（R7年度）	

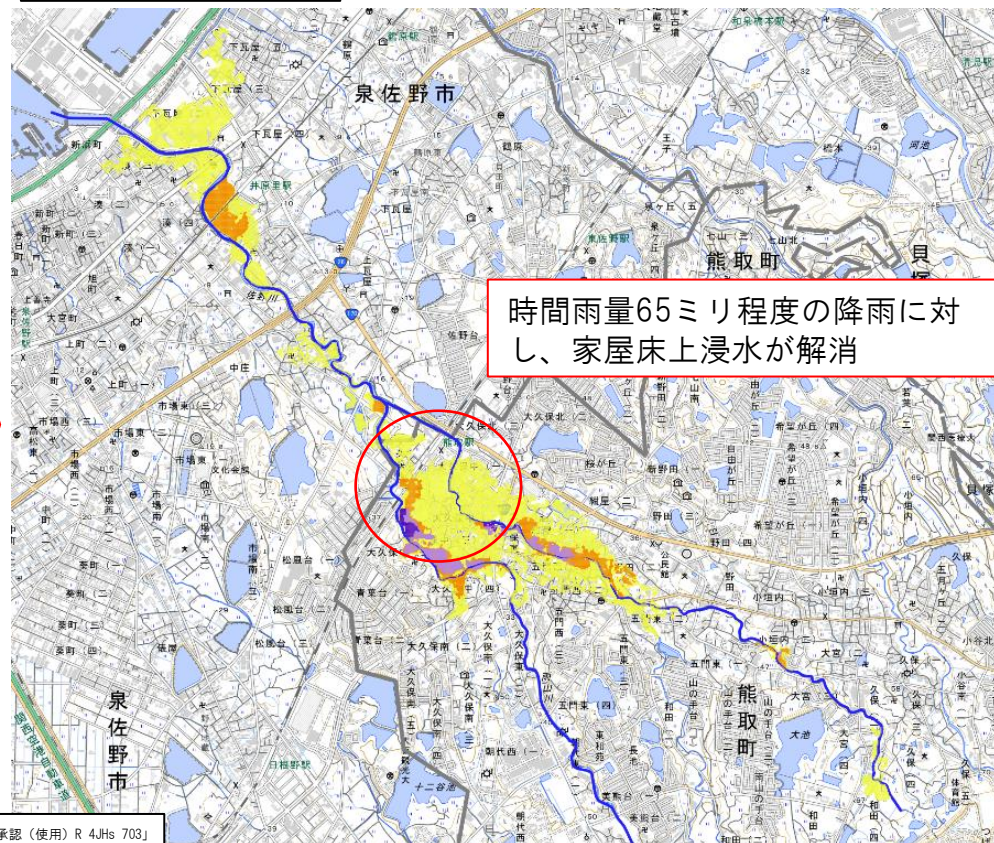
河川整備等による効果

河道掘削や新規調節池の整備のほか、既存調節池やため池の活用を推進により、
住吉川、雨山川：時間雨量65ミリ程度（1/30）の降雨に対し、家屋床上浸水が解消

現 状



整備後



※この図は、1/10、1/30、1/100の確率年及び想定最大規模の降雨により想定される、府管理河川の外水氾濫の浸水範囲である。

※「現状」の図は、氾濫シミュレーション時点（H30）の施設整備状況において想定される浸水範囲を示したものである。

※「整備後」の図は、河川整備計画の整備メニュー実施後において想定される浸水範囲を示したものである。なお想定最大規模については、施設整備の効果は考慮していない。

当面の治水目標に対応
した河川の整備



整備率:51%

(令和6年度末時点)

農地・農業用施設
の活用



1町

(令和6年度末時点)

流出抑制対策の実施



既存防災調節池等
0施設

(令和6年度末時点)

山地の保水機能向上
および
土砂流木災害対策



治山対策 0箇所
土石流対策 0 施設

(令和6年度実施)

立地適正化計画に
おける防災指針の作成



1町

(令和6年度末時点)

避難のための
ハザード情報の整備



洪水浸水
想定区域 3河川
雨水出水
浸水想定区域 0団体

(令和6年度末時点)

高齢者等避難の
実効性の確保



避難確保
計画 洪水 15施設
土砂 7施設
高潮 16施設
避難訓練 5施設

(令和6年9月末時点)

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

熊取大池の治水活用

航空写真



熊取大池は、本来、利水活用（農業用水）のみを目的として位置付け、余水吐にスリット(B1.05m×H0.50m)を入れて常時の水位を低下させることで、洪水時に約2万4千m³を貯留し、ピーク時に約2m³/sの流量低減効果を発揮します。



被害対象を減少させるための対策

熊取町の立地適正化計画策定の取組

熊取町では、令和4年3月に立地適正化計画を策定し、災害リスクの高い、土砂災害警戒区域、土砂災害特別警戒区域及び想定最大規模降雨で浸水深が3m以上となる区域を居住誘導区域から除外している。また、防災指針を作成し、防災まちづくりの取組方針を定めている。

熊取町立地適正化計画（概要版）

【立地適正化計画とは】
国土交通省が定める「国土の持続可能な利用の促進に関する法律」に基づき、国土の持続可能な利用の促進を図るための計画です。

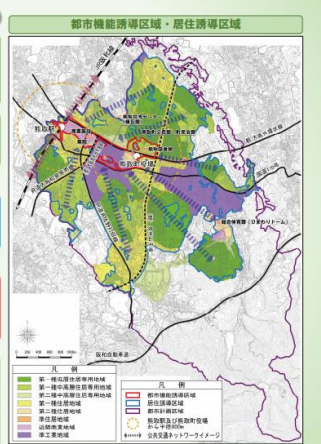
【計画の目的】
国土の持続可能な利用の促進を図るため、国土の持続可能な利用の促進を図るための計画です。

【計画の範囲】
熊取町の全域を対象とする。

【計画の期間】
令和4年度から令和6年度までの3年間。

【計画の策定】
熊取町議会が議決した。

【計画の実施】
熊取町が実施する。



被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

コミュニティタイムラインの取組

泉佐野市では、令和3年度に18地区を対象にコミュニティタイムラインを作成し、災害時に府民一人ひとりの避難行動につながるよう取り組んでいる。



水害対応タイムライン講演会



自主防災組織を対象としたワークショップ